

4～9月のアス合材製造量

3.9%減 上期で過去最少

日合協速報 工場稼働率3割切る

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）

の調査結果によると、2024年度上半期（4～9月）に会員企業840工場で製造したアスファルト合材の量は前年同期比3.9%減の15221万3204ト（速報値）だった。23年8月から24年9月まで14カ月連続で減少しており、上半期としては過去最少を更新した。工場稼働率は0.7割以下の29.7%と初めて3割を切った。日合協は「惨憺（さんたん）たる状況」と危機感を強めている。

製造数量の内訳は、主に国土交通省や高速道路会社が発注する高規格道路用に多い新規材が1.9%減の381万ト、主に地方自治体が発注し一般道の整備や修繕などに用いる再生材は4.5%減の1139万ト。製造数量に占める再生材の割合（再生合材製造率は0.5割低い74.9%だった。地域別の内訳は、能登半島地震の復興事業で増加し

ている北陸（3.5%増）と九州（1.5%増）を除く8地域が前年度を下回った。特に減少幅が大きかったのは中部で、12.6%減の184万トだった。全4県が2年連続で減少し、23年度上期（211万ト）と比べても200万トを割り込むなど深刻な状況となっている。

都道府県別では福井県（27.0%減）、静岡県（20.4%減）、広島県（19.0%減）の順に減少幅が大きかった。一方、滋賀県（31.2%増）、石川県（24.2%増）、青森県（20.3%増）などは反動増などもあって増加した。合材工場の稼働率は、全国平均が29.7%で、平均を上回ったのは関東（38.8%）、北陸（32.0%）、中部（30.6%）の3地域。最も低かった沖縄（15.2%）は関東と23.6割もの差が開いた。

